

# 【12月・1歳児・高月齢】

ほいくのおまもりプラス

	Aさん(高月齢/男児/活発) (2歳8カ月/4月生まれ)	Bさん(高月齢/女児/活発) (2歳7カ月/5月生まれ)	Cさん(高月齢/男児/静か) (2歳6カ月/6月生まれ)	Dさん(高月齢/女児/静か) (2歳5カ月/7月生まれ)
子どもの姿	1. 排尿前に自らトイレに行きたがる姿が増えてきたが、遊びのタイミングによっては行きたくならず、オムツに排尿していた。 2. ままごとコーナーで遊ぶ姿が増え、チェーンリングを顔に見立ててボールや鍋に入れてかき混ぜたり、トンぐで掴んで皿に移して楽しんでいった。 3. 母親の妊娠後から情緒不安定な姿が多く見られるようになり、活動の切り替えに時間がかかったり、思いが通らず泣いて表現していた。	1. 入眠に時間がかかる日が増えた。 2. 園庭や公園で、すべり台を楽しんだり鉄棒にぶら下がるなど、様々な動きを楽しんでいた。 3. 友だちとのトラブルの中で、「こおBちゃんが使ってる」と本児なりに言葉で伝えようとしたり、怒って泣く姿が見られた。		
ねらい	1. トイレで排尿する心地よさを感じる 2. 保育者や友だちと関わりながら、好きな遊びを楽しむ	1. 十分に休息を取りながら健康的に過ごす。 2. 寒さに負けず、戸外遊びを楽しむ		
内容	1. 保育者に誘われたり、自ら尿意に気づいてトイレに行き、便器に座って排尿する。 2. ままごとを通じて、見立てあそびを十分に楽しむ。	1. 保育者に見守られる中で静かに横になり、安心して体を休める。 2. 遊具を通じて、のぼる、おりる、くぐる、ぶら下がるなど、全身を使う楽しさを味わう。		
環境構成 配慮 援助	1. 無理強いにならないように配慮しながら、活動の切れ目や、尿意を感じているサインを見逃さず声をかけてトイレに誘う。自ら尿意を伝えられたときは、「トイレに行きたくなったんだね」「自分で言えたね」とその姿を認めるとともに、トイレで排尿する姿を見守りながら「すつきりしたね」と心地良さに共感し、自信と次への意欲につなげる。 2. ままごとコーナーの玩具や道具を十分に用意し、本児の自由なイメージに寄り添いながら遊びに参加し、楽しさを共有する。同じ空間で遊ぶ友だちとの関わりが生まれるように、「おさんにもご飯を作ってあげたらどうかね」「おさんは何屋さんなのかな」など、発想を引き出す言葉がけをしながら関わる。	1. リラックスして横になれるように、快適な室温と湿度を保ち、体を優しくさすったり子守唄を歌いながら見守る。一定時間体を休めても入眠できない場合には個別に配慮し、別室で絵本を読むなど静かに過ごせる環境を整える。 2. ケガを防止するため、戸外に出たらまず散策や体操を通じて十分に体を温め、遊具を使用する前には危険箇所や破損がないか確認するとともに、約束事をわかりやすく伝える。本児の「見て！」に応答的に関わり、全身を動かして遊ぶ楽しさに共感する。		
食事	・保育者に食べさせてもらいたがるときは、まずは思いを受け止めて介助し、徐々に自分で食べられるように関わる。 ・鉛筆握りでスプーンを持つ姿を見逃さず、「かっこよきスプーンを持っているね」「たくさん食べられそうだね」と伝え、自信につながるようにする。	・友だちや保育者とおしゃべりを楽しみながら食べ進める姿を見守り、食事の楽しさや喜びを感じられるように関わる。 ・横を向いたり姿勢が崩れてしまう姿も見られるので、食事に意識を戻すことができるように、「前を向いて食べようね」と声をかける。		
家庭との連携	3. わらべうたあそびや、絵本を通じた1対1の対応を取り入れて情緒の安定を図るとともに、送迎時に母親の心配や不安に寄り添いながら丁寧に関わり、母子ともに安心できるように関わる。 ・インフルエンザなどの感染症が流行しやすい時期なので、園での発生状況や本児の体調の変化をこまめに共有し、感染拡大防止に努める。	3. 友だちとのトラブルが増えてきたが、成長過程の一つとして安心して受け止めてもらえるよう、そのときの状況や本児の思い、保育者の援助を丁寧に説明していく。 ・靴のサイズが小さくなってきているので、足に合ったサイズの靴を用意してもらう。		
評価・反省	1. トイレに行きたがらないときは無理強いせず、「またあとで行こうね」と伝え、本児が納得できるタイミングを見極めて再度誘うようにした。自分からトイレに行く姿がさらに増えるように、引き続き焦らずに関わる。 2. 友だちとの関わりは見られたが、保育者に盛んに話しかけたり、側にいてほしがることが目立った。本児の「見て見て」という要求や甘い気持ちに応えつつ、友だちとイメージを共有しながら遊ぶ楽しさを感じられるように援助を続けたい。	1. 日によって「トントンして」「トントンしないで」と要求が違ったので、その都度思いを受け止め、安心して過ごせるように対応した。暖房を活用しながら、室温が下がりに過ぎないように注意する。 2. トンネルくぐりが気に入り、友だちと一緒にくり返しぐったり、中に留まって楽しんでいった。年上の友だちが縄跳びをする姿にも興味を持っていたので、縄を利用した遊びを考えて提供したい。		

無料版：2名分  
↓  
有料版の  
"おまもりプラス"  
は12名分が  
閲覧&DL可能！

子どもの姿の1, 2は『ねらい/内容/環境構成/配慮/援助/評価・反省』、3は『家庭との連携』と連動しています。

敬称と性別表記: ウェブサイトに当社方針を記載しております。

# ほいくのおまもり **Plus!**

## ダウンロードのお礼とおまもりプラスについて

この度は個人案をダウンロードいただき、ありがとうございます！

ほいくのおまもりプラスでは、**性別／タイプ別／月齢別の12名分の個人案（0,1,2歳児）**をご用意しています。更に・・・

- **無料版の2倍の月案文例**
- 丸1ヶ月分の月～金の全ての週案
- 毎月45個の製作型紙
- 毎月2つのスケッチブックシアター
- その他、会員だけのコンテンツ

これだけ揃って、**月額980円+税**の大特価！気になる人は、以下からおまもりプラスのサービスを確かめてみてくださいね。



## 文例ご利用時の注意事項

- 提供される文例は、一般的なケースを想定して作成されています。ご自身の具体的な状況やニーズに合わせて適宜修正を加えてご利用ください。
- 文例の利用によって生じたいかなる結果についても、当サービスは責任を負いかねます。自己責任においてご使用ください。
- 文例は参考としてのみご利用いただき、直接のコピー＆ペーストではなく、ご自身の言葉で表現を加えることをお勧めします。
- 法的な文書や重要な契約に関する文面は、専門家のアドバイスを受けて作成することをお勧めします。
- 文例の著作権は当サービスに帰属しています。無断での再配布や商用利用はご遠慮ください。